

## 7月教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和2年7月29日(水) 午後1時50分～午後4時20分
- 2 場 所 西部地域センター 講座室3、4
- 3 出席者 教 育 長 渡辺 宜宏  
委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 河合 禎隆 田中ゆかり  
事 務 局 教 育 次 長(岡本 聡) 教育総務課長(太田英明)  
学 校 教 育 課 長(鈴木聖慈) 教育総務課長代理(木下靖義)  
学 校 教 育 課 主 任 主 査 (宮下 智亘) 学校教育課主任主査(辻村文美子)  
学 校 教 育 課 主 任 主 査 (高邑 和樹)  
説 明 員 選定委員会委員長(西川 睦弘) 「国語・書写」説明員(尾崎 美子)  
「地理・歴史・公民・  
地 図」説 明 員(江間 昌史) 「数学」説 明 員(小笠原卓也)  
「理科」説 明 員(山田 忠) 「音楽・器楽」説明員(近藤美保子)  
「美術」説 明 員(廣田 明芳) 「技術・家庭」説明員(芦田 康宏)  
「保健体育」説明員(小松 健次) 「外国語」説明員(菅沼 晃)  
「道徳」説 明 員(堀尾 光宏)
- 4 議 案 第 18 号 令和3年度湖西市立中学校において使用する教科用図書  
の採択について

午後 1 時50分開会

**(渡辺教育長)** 出席は5名、定足数に達しているので、令和2年7月湖西市教育委員会定例会を開会する。

---

**(渡辺教育長)** まず、議案第18号「令和3年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」だが、この議案審議に入る前に、本議案の審議を公開することによって、教科用図書の採択期限である8月31日前に情報が漏れるおそれ及び各委員の率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定及び湖西市教育委員会会議規則第14条第1項ただし書の規定により、本議案の審議につきましては非公開としたいと思うが、これに異議はないか。

(異議なし・傍聴者なし)

**(渡辺教育長)** 異議なしと認め、本議案の審議については非公開に決定した。

---

それでは審議に入る。議案第18号「令和3年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」事務局の説明を求める。

**(学校教育課長)** 議案第18号「令和3年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」、湖西市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則(昭和31年湖西市教育委員会規則第5号)第2条第1項第15号の規定により、令和3年度湖西市立中学校において使用する教科用図書を別冊のとおり採択したいので承認を求める。令和2年7月29日提出 湖西市教育委員会教育長 渡辺宜宏。

湖西地区では、静岡県の基本方針に沿いまして「教科用図書選定委員会」及び「教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。選定委員会の委員には、湖西市小中学校PTA連絡会の副会長、岡崎小学校PTA会長、湖西市校長会会長、校長会代表、学識経験者の5名の方を委嘱した。6月12日から3回の湖西地区教科書研究委員会を開催し、7月20日に行われた第2回湖西地区教科用図書選定委員会では、研究委員会からの調査報告を受け、採択案をまとめさせていただいた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和3年度から使用する教科書を決定していただきたいと思う。

なお、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。

以上。

---

**(渡辺教育長)** ここでお諮りする。

教科用図書採択の採決については、種目ごとに調査研究報告、質疑、採決を行いたいが、これに異議ないか。

(異議なし)

**(渡辺教育長)** 異議なしと認め、種目ごとに調査研究報告、質疑、採決という順番で行う。

また、事務局から、各教科の調査研究に関する報告を行うため、湖西地区教科用図書選定委員会の委員長、説明員及び補助員の入室の許可について申出があった。これを許可することに異議ないか。

(異議なし)

**(渡辺教育長)** 異議なしと認め、選定委員会委員長、説明員及び補助員の入室を許可することとする。説明員の準備があるため、しばらくお待ちいただく。

それでは、まず湖西地区教科用図書選定委員会の経過について、委員長である鷺津中学校の西川校長に報告を求める。

**(選定委員会委員長)** 5月22日に第1回の湖西地区教科用図書選定委員会を開催した。採択の流れや調査研究の観点などについて確認をした。委員は、学識経験者として元湖西市教育委員会教育長の山下宗茂様、保護者代表として湖西市小中学校PTA連絡会副会長の山本優様、岡崎小学校PTA会長の大倉昌子様、校長会代表・東小の佐原哲之校長と私の5名である。7月20日には、第2回の湖西地区教科用図書選定委員会を開催し、代表者から調査研究報告を受け、採択案について協議をした。採択案については、お手元の資料にまとめさせていただいている。ご審議をよろしく願います。

**(渡辺教育長)** 続いて、教科用図書の採択に関する全体的な説明を、事務局に求める。

**(学校教育課主任主査(宮下))** 別冊をご覧ください。小中学校で使用する教科書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条とその施行令により、4年間同一のものを採択することになっている。次に、静岡県は11の採択地区に分かれており、湖西地区はその一つとなっている。湖西地区では、「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿って「湖西地区教科用図書選定委員会」及び「湖西地区教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和3年度から使用する中学校の教科書を決定していただきたいと思います。よろしく願います。

以上。

**(渡辺教育長)** これまでの報告及び説明について、質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

---

**(渡辺教育長)** それでは、続いて各種目の代表者から調査研究の報告をしていただく。まず初めに、国語について、報告を求める。

**(「国語」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「光村図書」が最もふさわしいと判断した。理由については、第一に、学習指導要領で示されている、「様々な場面で『生きて働く力』を身につける」ための工夫がされている点が挙げられる。例えば、80ページ「言葉を集めよう」、116ページ対話や質問の力を高める「聞き上手になろう」、146ページのグループ・ディスカッション「話題や展開を捉えて話し合おう」、などの生活や学習の基盤となる言語能力、34ページ「情報を整理して書こう」、60ページ「情報を集めよう」、などの情報活用能力、それらを高めるための学習活動がバランスよく配置されている。第二に、全国学力・学習状況調査等で課題となり、学習指導要領で新設された「情報の扱い方」について、情報を関連付け、適切に読み解くための内容が充実している点である。例えば、「思考のレッスン」として、52ページ「意見と根拠」、136ページ「原因と結果」、情報整理のレッスンの32ページ「比較・分類」、62ページ「情報を読み取ろう」など、計画的に配置されている。さらに、巻頭の9・10ページには、「思考の地図」という様々な場面で使える思考ツールが位置付けられ、巻末には、「思考レッスン一覧」「情報整理のレッスン一覧」があり、場面や目的に応じて生徒が主体的に活用できるように構成されている。

なお、東京書籍については、本編の中にある「学びの扉」と、基礎編の「学びを支える言葉の力」とがリンクしており、丁寧に学習事項を押さえられるようになっているという意見があった。例えば、96ページ「学びの扉」では、日常生活でありがちな「言葉の力」に関するつまずきを漫画で提示し、生徒が課題に気づき、単元を見通すことができるように工夫され、230ページの「学びを支える言葉の力」で基礎を確認できるようになっている。

三省堂については、「読むこと」の教材として「学びの道しるべ」で、丁寧に学習過程を示し、学びのステップが明確になっているという意見があった。28ページをご覧ください。「目標」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」、最後に「学びを広げる」と学びのステップを踏んでいる。また、40ページ「読み方を学ぼう」では、読みの方略を図解等で示し、「考え方」「読み方」として、様々な場面で活用できるようになっている。

教育出版については、各教材文や活動の前に「学びナビ」が新設され、その教材で「何を学ぶか」を示すことで見通しをもって学習が進められるように工夫されているという意見があった。「文学的・説明的文章」では、32ページ最初に「学びナビ」、次に34ページ「教材」、最後に40ページ「学習の手引き『みちしるべ』」という流れで

読みを深めるようになっている。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(袴田委員)** SDGsについてはどういった教育をされているのか。

**(「国語」説明員)** どの教科用図書についても掲載されている。環境や人権等の観点で国際社会で生きていくために必要なことが入っている。

**(袴田委員)** 世界的にSDGsと言われているが、現行の教科用図書に掲載されているのか。

**(「国語」説明員)** 現在の教科用図書ではこのような観点を掲載されていない。今後は、教科用図書で取り扱うので、SDGsについて意見交換や内容を深めるといったことが出てくると思う。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、書写について報告を求める。

**(「書写」説明員)** 選定委員会において、国語と同様、研究報告書をもとに、報告と検討を行った結果、「光村図書」が最もふさわしいと判断した。理由については、第一に、文字の特徴や書き方のポイントを観察や相互比較を通して主体的に考えることができるように工夫されている点である。52ページをご覧いただきたい。「やってみよう」と、まず自分自身で体験して文字についての課題意識をもつところから始まり、54ページ生徒への問いかけの「考えよう」、続いて55・56ページの「確かめよう」、そして57ページ「生かそう」という学習の流れが設定されている。教材冒頭に生徒が考えたり話し合ったりする活動が位置付けられることで、生徒が主体的に考えることができ、「文字を整えて書きたい」という生徒の思いを引き出しながら学習できるように工夫されている。第二に、「書写ブック」という硬筆練習帳が教科書に付いており、取り外して使えるように工夫されている点が挙げられる。表紙の次のページをご覧いただきたい。毛筆の学習を生かして、硬筆で書くという活動がしやすくなり、繰り返し学ぶことで毛筆の学習を定着させることができるようになっている。「毛筆を使用する書写の指導が、硬筆による書写の能力の基礎を養う」という学習指導要領の配慮事項が意識されている。

なお、東京書籍では、AB版という大判サイズを用い、幅広のページの左右で、教材文字と学習のポイントが同時に見ることができるよう工夫されているという意見があった。34・35ページをご覧いただきたい。見開きのページの中で、単元のポイントが「書写のかぎ」として提示されていることで、目標を意識して練習できるようになっている。

三省堂については、40・41ページをご覧いただきたい。右の上部に「書き方を学ぼう」のコーナーがあるが、具体的な書き方のポイントを言葉と図で分かりやすく解説しているという意見があった。「書き方を学ぼう」を用いて毛筆で書いて習得したことを、44ページの「書いて身につけよう」で硬筆による書き込みで練習するようになっている。

教育出版では、東京書籍と同様、ワイドな紙面を生かし、見開き完結型で学習内容や手順が明確に示されているという意見があった。46・47ページをご覧いただきたい。学習過程が、「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の流れになっていて、生徒が自分自身で課題を見つけたり成長を感じたりしながら学習できるようになっている。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(佐原委員)** 書写の授業の進め方もいろいろな方法があるが、基本的には書くことが多いのか。

**(「書写」説明員)** これまでは、手本を忠実にまねて書くことが主流であったが、これからは、どうしたら整った美しい字が書けるのか、日常でこういう所にこんな書体が使われているなど、自分自身が主体的に学ぶことを中心としている。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、書写の教科用図書の採択案について採

決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、書写の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、社会・地理的分野について報告を求める。

**(「社会・地理的分野」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行った。その結果4社の中で「帝国書院」が最もふさわしいと判断した。理由としては、まず、47ページのように、「世界の諸地域」の章の始まりで、社会的事象を関連付ける視点を提示したり、各州の学習の展開があらかじめ見通せるように図示したりして、生徒が主体的に学習を進めやすくなっている点である。また、184・185ページのように、各節の学習の振り返りが2ページにわたって構成され、内容が充実している。白地図に平野や台地などが示されているだけでなく、「その地域でどのような産業が盛んなのか」など社会的事象が関連付けられている。さらに、思考力・判断力・表現力を磨くための「まとめ方」が工夫されていて、ステップ1～3といったように学習の進め方が図で丁寧に提示されている。その他、写真資料に関連付けられた地図や、QRコードで活用できる動画など、生徒の関心を高める工夫がある。さらに「SDGs」に関する資料も豊富でこれからの社会に関心をもって参画していく視点も盛り込まれている。

東京書籍は、教科書の導入部分で「持続可能な社会の実現」という視点を与えている。また、世界の諸地域や日本の諸地域の単元では、はじめにその地域の特色をつかむための資料を提示し、地域を大観しながら、単元全体を貫く課題を設定し、その課題解決的な学習を進めるように組み立てられている。そして「まとめの活動」では単元ごとの重要語句や要点をまとめ、「探求のステップ」によって、発達段階に応じた探究活動ができるよう工夫されている。

教育出版は、見開きのページごとに歴史・公民分野との関連が示されたり、「現代日本の課題を考えよう」などが設けられたりして、教科横断的な学習ができるように工夫されている。また、「地理の技」による地図やグラフの扱い方や、「ワードチェック」による重要語句の確認、「地理の窓」による興味や関心に合わせた発展的な学習等の工夫もある。その他、各章ごとにQRコードがあり、情報収集に役立つ「学びリンク」も用意されている。

日本文教出版は、世界の諸地域や、日本の諸地域の単元において、その地域の地形と人口密度を表した地図を横並びで示す等、資料を関連付けて読み取る力を養うことができる。また、各節で設定したテーマについて、学習課題を示しながら、「導入」「あらしをつかむ」「テーマの追究」「ふりかえり」の順で構成され、生徒が主体的・対話的で深い学びができるようにしている。その他、コラム「地理+α」は、学習内容を掘り下げ、理解がさらに深まるように工夫されている。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(河合委員)** 帝国書院だけ図表の表し方としてメルカトル図法など、説明の表記がないが、授業において問題ないか。

**(「社会・地理的分野」説明員)** 授業の中では取り上げて説明している。また地図も併用して使っている。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、社会・地理的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、社会・地理的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、社会・歴史的分野について報告を求める。

**(「社会・歴史的分野」説明員)** 選定委員会において、7社の教科書の中で「帝国書

院」が最もふさわしいと判断した。理由としては、まず、本文について、初めにその出来事が起きた背景や日本との関わりについて記述があり、生徒が、そのできごとがなぜ起きたのかを推測できる等、学習課題が自然な流れでつかみやすいということが挙げられる。内容についても中央だけでなく、地域の歴史を多く取り上げ、歴史が多面的に捉えられるように工夫されている。次に、81ページ「タイムトラベル」のように、各節のはじめに、他の時代との比較や、世界史との関連が読み取れるページが多くある。また、見開きのどの右ページにも年表があり、年代が前後しがちな歴史学習において、流れをつかむ工夫がなされている。また、各資料が大きくて見やすい配慮がされているだけでなく、236ページの新聞記事の写真のように、資料につく説明や中の人物の特定、文字についても読み取りやすく、必要な解説がつけられている。

東京書籍は、資料が豊富でレイアウトも工夫されており、子どもが興味を持ちながら、時代の特徴を、多面的・多角的に理解できる構成になっている。また、第1章「歴史へのとびら」では、小学校社会科でおさえた人物を取り上げ、中学校社会科の「時代を大観する」視点への気付きにつながるよう工夫されている。さらに「まとめの活動」では、クラゲチャート等のツールを使うなど、まとめる際の視点を与え、生徒の思考を助けるような配慮もされている。

教育出版は、グラフ、写真などの資料が大きく、読み取りやすくレイアウトされている。見開き2ページごとに、学習課題に対応した「確認」「表現」のコーナーが設定されていて、歴史的事象を比較したり関連付けたりして考察できるようになっている。また、単元構成が「世界の動きから日本の動き」の順で配列されていて、時代背景を大局的におさえながら学習することができる。

山川出版は、資料やその解説が充実しており、読みごたえのある内容になっている。資料は本文と関連付けて読み取りやすいよう配置されており、子どもの思考力を育む構成となっている。また、地理的分野での学習内容と関連付けながら、多角的に歴史的分野との学習が行える工夫がなされている。1章「歴史との対話」では、西暦と世紀、時代区分の表し方など、歴史的分野を学ぶ上で必要な知識をおさえる内容も用意されている。

日本文教出版は、「歴史的な見方・考え方」を特設ページで解説し、各見開き2ページの学習課題に「見方・考え方」を合わせて示しているのが特徴的である。また、「先人に学ぶ」「チャレンジ歴史」などのコラムや、活動の仕組みを理解するための「歴史との対話」を設けることにより、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。その他、巻末には「『歴史との対話』を未来に活かす」として、歴史を踏まえて現在や未来について考え、時代を大観する発展学習もある。

育鵬社は、各章の初めに、歴史絵巻で時代の流れを大きくとらえる「鳥の目で見ると」、各時代の代表的な絵画を使って細かな特徴を見つける「虫の目で見ると」の2つが用意されているのが特徴的である。資料は読み取りやすく、「歴史ズームイン」「人物クローズアップ」など多くのコラムが配置されている。また、各章末の「歴史のターニングポイント」では、資料に基づいて事象を詳しく掘り下げ、主体的・対話的で深い学びが実践できるようになっている。

学び舎は、見開きページで世界史とのつながりを重視した記述を示すことによって、日本の歴史を深く理解ができるよう工夫されている。また、「火おこし」や「糸を紡ぐ」などの具体的な体験を通して、現在の生活の便利さに気付けるよう工夫されている。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) どの出版社の教科用図書も良い評価をされているようだが、なぜその中で、帝国書院が一番良いのかを説明してほしい。

(「社会・歴史的分野」説明員) それぞれに一長一短はあるが、1つ挙げると帝国書院では、あいうえなど記号がふってあり、教員が指導しやすい。また年表も見やすい。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、社会・歴史的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、社会・歴史的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、社会・公民的分野について報告を求める。  
**(「社会・公民的分野」説明員)** 選定委員会において、6社の教科書の中で「東京書籍」が最もふさわしいと判断した。東京書籍は、6ページのように、各単元の導入等で「みんなでチャレンジ」を設け、資料をもとに多様な視点を具体的に与え、思考ツールを提示するなどして、気付きを促し、関心を高める構成になっている。また、10ページのように、見開きページごとに、「見方・考え方」マークで、課題が示され、現代社会についての見方や考え方の視点から思考が深まるようになっている。そして下段には「チェック」、「トライ」があり、重要などころのチェックも行いやすくなっている。さらに、27ページ「みんなでチャレンジ」や16ページ「もっと公民」等、決まりや多数決、お金の使い道など、生活に密着した課題を多く示すことで、課題を主体的・対話的に解決する態度を養うよう工夫されている。その他、図や写真など、同じ内容でも資料がわかりやすいこと、しかも新しいものが使われている点も理由である。

教育出版は、「SDGsの達成」を柱ととらえ、最終単元で地球規模の課題と向き合うための課題を設けるなど、主体的な学習ができるよう工夫されている。また、「公民の窓」で多面的・多角的な視点を提示して、現代社会への理解が深まるようにしたり、小学校や他分野とのつながりを示す「クリップ」の記事を用意して、教科横断的な学習ができるようにしたりする工夫もされている。その他、QRコードで学習に役立つ情報を見ることができ「まなびリンク」もある。

帝国書院は、見開き2ページの1時間分が、冒頭に「学習課題」、終末に「確認しよう」の流れで統一されていて、学習の流れが掴みやすく構成されている。また、各単元の「アクティブ公民」のコーナーでは、裁判員裁判や道路拡張計画など、具体的な事例を取り上げ、対話的な活動を通して多面的・多角的な視点をもたせ、思考力・判断力・表現力が高まるよう工夫されている。その他、学習内容と実社会の具体的な動きを結び付ける「公民プラス」も設けられている。

日本文教出版は、「新しい時代を担う主権者を育てる」ことを柱に、各単元で具体的な問いや活動を通して、見方・考え方をはたらかせるように組み立てられている。また、「チャレンジ公民」では、既習の学習内容を生かして、社会の課題を考察できるよう争点を明確にして、生徒が議論に参加できるよう工夫されている。見開き下段に他の分野への関連が具体的に示される等、学習の手助けをする工夫がある。

自由社は、「ここがポイント」で、学習内容を焦点化して示し、現代社会へ理解が深まるような工夫がされている。「もっと知りたい」のコーナーでは、現代社会の課題の解決を目指して、主体的に社会にかかわろうとする態度を養うよう工夫されている。全体的に資料が精選され、本文が見やすくなるような工夫がされている。また、「単元のまとめと発展」では、生徒の発達段階に応じて学習ができるようになっている。

育鵬社は、単元のはじめには、学習への興味や関心が高まる「学習の入り口」を、単元の終わりには、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想できる「これから」を設け、主体的に学習できる構成となっている。写真や表、グラフ、図、コラムなどを豊富に掲載することで、現代社会への理解が深まるよう工夫されている。また、「やってみよう」では、昼休みのグラウンド使用等、実生活に関連する内容を取り上げ、学習できるコーナーも用意されている。

以上。  
**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(袴田委員)** 社会の地理、歴史及び地図が帝国書院で、公民だけ、東京書籍になっているが問題ないか。

**(「社会・公民的分野」説明員)** 教科用図書の内容で選定してそのような結果になったが問題はない。

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、社会・公民的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手多数)

**(渡辺教育長)** 挙手多数である。よって、社会・公民的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、社会・地図について報告を求める。

**(「社会・地図」説明員)** 選定委員会において、2社のうち「帝国書院」がふさわしいと判断した。理由として挙げられるのが、まず、大判で見やすく細かな資料も読み取りやすいことである。10ページのように、色の濃淡もはっきりして平地や山地の標高もわかりやすい。また、例えば、127・128ページの関東の人口分布、東京周辺の人口増加率と通勤・通学者数など、教科書の学習内容と関連させて、対象地域の特色が多面的多角的に読み取れるような資料を掲載している。さらに、歴史分野や公民分野との関連が図られ、107ページの江戸時代の5街道、108ページの世界遺産、富士山噴火時の降灰予想など、重要な地名や事項が多く掲載されている。その他、那覇市中心部に産業の他、米軍基地など、その地域の特色が示されたり、尖閣諸島や知床半島から見た国後島の写真が添えられていたりして、実際の社会生活と結びつけて正しく理解できるようになっている。

東京書籍は、各地域の位置図や国旗、主要な都市名など、細かな情報が記載され、多くの資料を通して対象地域の特色が読み深められるよう構成されている。また、教科書の各章で取り扱われる産業や気候などが、見開きのページにまとめられており、対象地域の地域的特色を多角的・多面的に読み取る工夫がなされている。その他、巻末には、近隣諸国と領土をめぐる問題を抱えている地域を写真で示し、日本の領域について理解を深める工夫がされている。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、社会・地図の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、社会・地図の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。ここで、少し休憩を入れさせていただく。再開は、午後3時5分からとする。

午後2時55分休憩

---

午後3時5分再開

**(渡辺教育長)** 休憩を解いて、会議を再開する。

---

引き続いて、数学について報告を求める。

**(「数学」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「学校図書」が最もふさわしいと判断した。まず、巻頭4ページをご覧いただきたい。主体的対話的で深い学びについて具体的な説明がなされている。次に16・17ページをご覧いただきたい。本文には「問」「見方考え方」「目標」「例」「やってみよう」「どんなことが分かったかな」「次の課題へ」などが明記され、自主的な学びを促すようになっている。巻末245ページからの「さらなる数学へ」では協働学習形式で、レポート発表の仕方や聞き方が示され、考えを表現する方法を学ぶことができ、裏表紙にはホワイトボードのように書き込みができるアイデアボードがある。このように、学び方や見方考え方をきちんと示し、自らの力を振り返りながら、協働的な学びを意識させ、主体的対話的で深い学びを促そうとする工夫が多くなされている。次に、他社の教科書について説明させていただく。

まず、東京書籍である。52・53ページをご覧いただきたい。本文の基本は「例」から「問」とシンプルな形になっている。巻末229ページからの「数学の自由研究」などでは、学習した内容を活用して実社会と数学を結ぶ題材が紹介されていて、生徒の主体的な学びへとつなげる工夫がされている。

次に、大日本図書である。28・29ページをご覧いただきたい。本文では、問いの前に「活動」や「例」を配置し、課題意識をもって自主的に取り組みやすくなるよう工夫されている。章末の73ページからのような「力をのばそう」を通して、学習内容を利用した問題解決の仕方や発展的な内容に触れられるようになっている。

次に、教育出版である。巻頭8ページから「数学的な考え方」を具体的に紹介し、11ページでは折り込み形式を工夫することで「数学的な考え方」の視点をいつでも確認できるようにして工夫されている。次に62・63ページをご覧いただきたい。「Q」、「例」、「たしかめ」、「問」のように統一された記述で、生徒の思考に沿った構成になっている。

次に、啓林館である。41・42ページのように側注に解き方のポイントを端的に示して、生徒が考え方を理解できるようになっている。裏表紙からの「自分から学ぼう編」と本文を関連付けて、自主的な学びを促すよう工夫されている。

次に、数研出版である。78・79ページをご覧いただきたい。会話場面、ノート形式での考え方の提示、キャラクターによるポイント指摘などを生かし、生徒の主体的な学びを促している。大きな特色としては、別冊「探求ノート」があり、ワークシートを利用して主体的に学習を進められるように配慮されている。

最後に、日本文教出版である。12ページをご覧いただきたい。本文内に「めあて」が赤字で示され、生徒が学びの見通しをもちやすいように工夫されている。34ページのように「学びあおう」と記されている項目は、巻末281ページのように「対話シート」がついていて、自己内対話や話し合いがしやすいように工夫されている。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) ノートの書き方が載っているが、それに沿った形でノートを書くように指示を出すのか。

(「数学」説明員) 1人1人の工夫した書き方があり、例示として示してあるので指示は出さない。いい例が載っていれば参考にはしている。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、数学の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、数学の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、理科について報告を求める。

(「理科」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「大日本図書」が最適と判断した。大日本図書は、主体的な態度を育成する工夫や発展的な学習への工夫を施しながら、基礎・基本の確実な定着への配慮も十分になされている、大変バランスがよい教科書である。また、「科学的な考え方」を大切にする姿勢も他者に秀でている。171ページの実験2では、分かりやすく手順を示すだけでなく、コツや注意を効果的にアドバイスしている。実験の頁には「結果の見方や考察のポイント」だけ示すことで、生徒たちの対話活動を保証しつつ、次の172ページに、結果やまとめをわかりやすく例示することで、確実な理解を補っている。また、187ページの実験3を御覧いただきたい。今回、新たに盛り込まれた「イオン化傾向」の実験である。他者が、反応の見られない組み合わせの実験を割愛する中、3液・3金属、9種類すべての組み合わせを検証するよう提案している。「金属にはイオンになりやすいものとなりにくいものがある。」という考察を引き出すためには、可能な限りたくさんの組み合わせで検証すべきである。「変化なし」という結果も考察の重要な手がかりになるという「科学的な見方、考え方」を大切にする姿勢が、この実験に強く表れている。

東京書籍については、「主体的な態度」を育てる工夫や、習熟度に応じた「発展的な学習」の工夫が最も充実していると好評であった。「既習事項を活用して生徒たちに自力解決を促す企画」が満載で、理科好きな生徒がさらに興味を深め、主体的に学習を進める上では大変よい教科書といえる。

学校図書は、5社の中で最も頁数が少なく、軽量ながら、レイアウトの工夫により、探求の過程が整然と示されており、大変見やすく、分かりやすく、基礎・基本の確実な定着を重視している教科書である。理科の苦手な生徒にも、「できた。わかった。」という実感を味わってほしいという姿勢が感じられる教科書である。

教育出版は、5社の中で最も豊富な紙面を生かして、フォントのポイントをあげ、同一ページの段組みを排除する、という巧みなレイアウトも相まって、「見やすさ」という点では他者に抜きん出た教科書である。紙面の見やすさは、生徒の視線の安定

につながり、思考の流れをスムーズにする効果が期待できるものとする。

最後に啓林館である。106ページをご覧いただきたい。生徒たちの興味・関心を引き出す、こうしたダイナミックな写真資料が啓林館の大きな特徴である。5社の中でも最もたくさんのQRコードを配置し、リンクする映像資料で学習内容をサポートしている。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、理科の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、理科の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、音楽一般・器楽合奏について報告を求める。

**(「音楽一般・器楽合奏」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「教育芸術社」がふさわしいと判断した。理由については、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めるのにふさわしい教科書だと考えられるからである。音楽一般の1年生8・9ページをご覧いただきたい。歌唱、創作の表現活動、鑑賞の活動、左側に示されている3つの資質・能力の柱が学びの地図として示され、どのような音楽の力を身に付けられるか生徒が見通しをもつことができる。21ページから23ページをご覧いただきたい。創作教材である。具体的な手順が示されているので、無理なく活動に取り組むことができる。器楽の教科書の20ページからは、リコーダーの学習であるが、小学校で使ったソプラノリコーダーと同じ運指でアルトリコーダーでも演奏できるようになっている。調は違うが、運指にとまどう生徒にとって、工夫された導入だと言える。46ページをご覧いただきたい。唱歌が取り上げられている。唱歌とは和楽器の奏法や音の感じを言葉で表したものである。学校の和楽器の数には限りがあり、生徒が十分に演奏できるわけではない。唱歌を取り入れることにより、実際の演奏だけでなく実感を伴った学びにつなげることができる。

なお、教育出版社については、各教材に「比べてみよう」「深めてみよう」が示されていることで学習の積み重ねを確認しやすい、器楽の巻末のギターのコード表が写真を使っているため、実際の指の形がわかってよいという意見があった。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、音楽一般・器楽合奏の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、音楽一般・器楽合奏の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、美術について報告を求める。

**(「美術」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに報告と検討を行い、「日本文教出版」がもっともふさわしいと判断した。理由については、まず内容面において、生徒が自然や環境、日本の伝統文化に関わる題材、諸外国の生徒作品、建築など幅広い内容に興味・関心をもって学習に取り組めるよう、原寸大図版や美しい色彩で目を引く図版が充実している。また、アーティストやデザイナーのことば、社会間

題、地域文化を取りあげることで美術が社会とつながることが理解しやすくなっている。また、教科等横断的視点から、特別活動や行事、総合的な学習の時間と関連させながら学習できるよう配慮されている。大きな特徴として、美術1、美術2・3上、美術2・3下の三冊構成で3年間の発達段階を踏まえた構成となっている。2・3上では学びの実感と広がり重点を置き、2・3下では社会や環境の問題へと視野が広げられるように工夫されている。色彩や形といった造形要素を重視する美術科では、原寸大図版や美しい色彩で目を引く図版が充実していることは重要なポイントであり、三冊構成で3年間の発達段階を明確に意識し、美術の果たす役割について考えさせる内容となっていることも、主体的・対話的でより深い学びの充実に大切だと考える。

開隆堂については、生徒が学習の意義を理解した上で、実際の制作活動や鑑賞に取り組めるよう、各領域で学ぶ内容や学習の魅力がわかりやすい工程写真と説明で示されている。また、題材ごとに知識や技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力という三つの目標が生徒にわかりやすく整理されている。教科書の下隅に他教科との関連する内容が示されており、カリキュラム・マネジメントの推進が意識されているという意見があった。

光村図書については、世界の中の日本を念頭に置き、日本の伝統文化や模様、工芸品、ゴッホと浮世絵の関わりなど、幅広いテーマで生徒に考えさせるように工夫されている。また、表現活動を伴う題材において、生徒が試行錯誤しながら自分らしい表現を見つけ出せるよう、複数の生徒のアイデアスケッチや制作過程を紹介してあるという意見があった。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、美術の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、美術の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、保健体育について報告を求める。

**(「保健体育」説明員)** 選定委員会において、研究報告書をもとに報告と検討を行い、「大日本図書」が最も適当であると判断した。湖西市では新学習指導要領の重点である「主体的・対話的・深い学び」を各教科で実現しようとしている。保健体育でも同様で、大日本図書はこの点に大きな特徴がある。1時間割り当てのページをご覧いただきたい。右側が資料のページに統一され、その上段に資料をもとに「話しあってみよう」と対話の投げかけをしている。これが毎時間積み重なっていけば、対話を通しての学ぶ力が育まれると思われる。他の教科書もそれぞれに優れた点があった。

東京書籍は、学習の流れがわかりやすく、資料が見やすく精選されていた。学びやすいバランスのよい教科書であると思った。

大修館書店は、振り返りや章のまとめ問題に力を入れていた。自己の習熟度を確かめながら、学習が進められる教科書であると思った。

学研は、資料が豊富で、しかも、専門家のインタビュー記事が多く掲載されていた。意欲的な生徒には、深く掘り下げたり、視野を広げたりと研究心をくすぐる教科書だと感じた。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(河合委員)** AEDの使い方の記述が不十分ではないかという印象を受けるが、実際の授業では問題ないか。

**(「保健体育」説明員)** 教科用図書だけを利用するのではなく、市の出前講座を活用し消防署員を講師にし、器具用具を持ち込み、体験学習をしている。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、保健体育の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、保健体育の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、技術・家庭の技術分野について報告を求める。  
(「技術・家庭の技術分野」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「東京書籍」が最もふさわしいと判断した。その理由としては、各内容において「技術の原理・法則と仕組み」のページを設定し、それぞれの技術における重要な概念等を明確に示している。「技術による問題解決」のページでは、「技術のとびら」と題し、科学的根拠に基づいた解説により習得する技術の有用性を示したり、「テックラボ」では、技能に関する基礎的な内容が明示されたりしており、問題解決への確かな足がかりとすることができる。また、「社会の発展と技術」のページでは、本教科の見方・考え方の「技術の最適化」をキーワードとして取り上げ、持続可能な社会の実現に向けて、広く生活や社会を見つめなおすことができるように工夫されている。

次に、教育図書である。各内容において「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」という分かりやすい言葉で示し構成している。そして「つくって学ぼう」では、簡単な題材例を示し、その製作を通して知識・技能を習得できるよう工夫されている。製作を伴って学習を進めるため、生徒の学ぶ意欲を高め、より実践に役立つ知識・技能の習得につながるとの意見が出された。

最後に、開隆堂である。各内容において、「技術による問題解決」のページには、充実した内容そして量の「実習例」が示されている。そして、それらはいずれも、問題の発見から課題の設定、実習、評価・改善と問題解決のための流れが明示されており、目指す資質・能力の育成に効果的であると考えられる。また、各内容の終末に、「これからの技術」についてまとめられており、将来につながる技術の在り方を学習できるため、生徒は学びの有用性を確認することができるとの意見が出された。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、技術・家庭の技術分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、技術・家庭の技術分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、技術・家庭の家庭分野について報告を求める。  
(「技術家庭の家庭分野」説明員) 選定委員会において、研究報告書を基に、報告と検討を行い、「東京書籍」が最もふさわしいと判断した。その理由については、巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう」を配置し、実習を行う上で欠くことのできない事項をいつでも確認できるようにしていること。そして、各内容においては、「いつも確かめよう」のページにおいて、技能を身に付けるための重要事項をまとめ、生徒が確実におさえることができるよう工夫されている。実践的・体験的な活動を通して、工夫し創造する資質・能力を育む本教科の目標に即した内容及び配列となっていること。また、「ガイダンス」のページでは、3年間の学びを通して生活をより豊かにする実践的な態度が身に付くよう、教科の見方・考え方をもとに生活をみつめることができるよう工夫されていることなどの意見が出された。

次に、教育図書である。各内容では大きく「やってみよう」と「学びを生かそう」のページに分けている。「学びを生かそう」では、普段の生活の中から問題を発見し、課題解決に向け計画し、評価・改善をしていく流れを示している。これにより、家庭分野の目標にある「よりよい生活の実現」に向けた課題解決型の授業を進めるうえで

効果的であると考える。

最後に開隆堂である。今回の改定では、主体的、対話的で深い学びがうたわれている。本教科書では、「わたしの興味・関心」のページで生徒の学ぶ意欲を高め、「やってみよう」のページでは、対話的な学習が展開されるようになっている。そして、後段の「ふり返り」、「生活に生かそう」、「生活の課題と実践」のページを通してより深い学びへとつながるようになっており、改訂の趣旨に合ったものとなっているという意見が出された。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(佐原委員)** 技術分野、家庭分野の教科用図書は同一の出版社で揃えた方が良いものなのか。

**(「技術家庭の家庭分野」説明員)** 決まりはないが、1つの教科なのでそろえた方が良いと思う。検討の中で、別々の出版社でも良いと示したが、内容を見て判断した。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、技術・家庭の家庭分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、技術・家庭の家庭分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、外国語について報告を求める。

**(「外国語」説明員)** 「学習者にとっての学び」という視点を大切にし、調査研究、検討した結果、「東京書籍のNEW HORIZON」が最もふさわしいとの判断をした。その理由は、大きく三つある。一つ目の理由は、48ページのように、各Stageで学習したことをもとに、Stage Activityで、発表、紹介文、討論などアウトプットの活動があり、学習者の表現力を意識したものとなっていることが挙げられる。二つ目としては、本教科書の大きさである。他社のものと比べ大判サイズである。見やすさの観点からも特長があると言える。そして、紙面が多くなった分、扱うセンテンスや語彙が豊富となり、学習者にとってより多くの表現方法に触れる機会があるとも言える。三つ目としては、本市の小学校外国語科において使用されている教科書が東京書籍の教科書であり、学習者の学びの連続性があることや学習者にとってストレスフリーであることなども挙げられる。

今からは、他の5社について簡単に報告する。はじめに、開隆堂出版の「Sunshine」についてである。本教科書で扱う単語の数は必要最低限に抑えられており、英語の学習に抵抗を示す生徒への配慮がうかがえる。先ほどの東京書籍の「NEW HORIZON」とは、やや対照的な配慮の仕方であると言える。本教科書も、英語の学習を通して幅広く知識を学ぶことができるようになっている。100ページではマララさんの国連本部でのスピーチ内容を扱っている。

次は、三省堂の「NEW CROWN」である。本教科書は、レッスンごとに4技能を習得するためにReadとSpeakなどのページがわかりやすくなっている。また、Take ActionやGet、文法のまとめなど、そのレッスンで学習したことを復習したり、活用したりすることができるようになっている。さらに、36ページの下に示されているように、ターゲットセンテンスが非常にわかりやすく記載されているのも特長の一つである。

次は、教育出版の「ONE WORLD」である。レッスンごとにパート1～3、Review、Task、Grammarがあり、さらに発展的なTipsやProjectなどの活動もあり、1レッスンで、スパイラル学習ができるように工夫されている。会話のシーンがイラストや写真で記載されており、学習者にとって見やすく、興味関心を引くようになっている。

次は、光村図書出版の「Here We Go!」である。日常の場面を意識して物語が対話形式になっており、どの生徒にも理解しやすくなっている。16ページのようにGoalの活動が明確に設定されており、Unitを通して文法事項を活用していくことができる構成となっている。挿絵や写真なども割とシンプルであり、意識が他へ向かないように配慮されている。

最後は、啓林館の「BLUE SKY」である。16ページのようにその課ごとにGOALの活動が設定されているため、単元全体を見通した計画が立てやすくなっている。世界各国はもちろんだが、日本のことも扱っている。76ページには、「ゆるキャラ」として

有名な「ひこにゃん」まで登場しており、生徒の興味関心を高めようとしている。

説明は以上になるが、東京書籍の「NEW HORIZON」をはじめ、全6社すべてにQRコードがついており、音声での学びが保証されていることを最後に申し添える。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

**(袴田委員)** この教科用図書だけ大きくて見やすいとのことだが、現行もこの大きさなのか、持ち運びはどうか。

**(「外国語」説明員)** 今は他社でこのサイズよりは少し小さい。見やすさで判断した。

**(佐原委員)** 現行の三省堂「NEW CROWN」から東京書籍「NEW HORIZON」に変更となるが問題ないか。小学校で東京書籍が教科用図書として採択されている点を重視しているのか。

**(「外国語」説明員)** 教員からするとストレスがなく使うには現行と同じ方が良いが、学習者にとって学びの充実という点から判断した。

**(佐原委員)** 東京書籍「NEW HORIZON」のサイズが大きくなったのは今回の教科用図書からなのか。

**(「外国語」説明員)** そのとおりである。

**(渡辺教育長)** 他に質疑がないようであれば、外国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、外国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

続いて、道徳について報告を求める。

**(「道徳」説明員)** 「日本文教出版」の教科書が、最適だと判断した。その理由は、魅力ある教材が多数あること、教材末の発問例が「考え、議論する道徳」の授業づくりに適していること、現在使っている教科書で教員も生徒も使い慣れていること、別冊の「道徳のノート」が改善されより使いやすくなったことなどが理由である。

なお、東京書籍は、新聞記事や漫画、生徒の作文など多くの種類の教材が設定されていて、生徒が興味や関心をもちやすいという意見があった。

教育出版は、教育現場で長く親しまれてきた教材が多く掲載されている。また、学校生活を舞台にした教材は、「けやき中」として扱われ、3年間を見通した内容になっていて、生徒が親しみやすいという意見があった。

光村出版は、「考えよう」「見方を変えて」で多面的・多角的な見方ができ、「つなげよう」で他教科や日常生活との関わりにおいてさらに考えを深めていくことができるという意見があった。

学研教育みらいは、教材の前に主題名を示さないことで、特定の価値観を押し付けず、生徒自らの気づきや考えを大切にするとともに、多面的な考えを引き出せるという意見があった。

廣済堂あかつきは、教科書と併用できる「中学生の道徳ノート」は、自由度の高い記載欄と、思考の補助となる資料が掲載されており、考えを深めるのに有効であるという意見があった。

日本教科書は、学習指導要領の内容項目ごとに教材を配列しており、教科書の順番に縛られることなく、各学校で年間指導計画が立てやすいという意見があった。

以上。

**(渡辺教育長)** 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

**(渡辺教育長)** 質疑がないようであれば、道徳の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

**(渡辺教育長)** 挙手全員である。よって、道徳の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

---

最後に、本日配布した「別冊 教科用図書採択資料」は、この後、回収させていただき、事務局で処分させていただく。また、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。本日の議事録についても、教科用図書の採択期限である8月31日を過ぎた後に公表することとする。本日の案件については、これをもって全て終了した。

これにて、令和2年7月湖西市教育委員会定例会を閉会する。

閉 会            午後4時20分終了